

第5回 将来ビジョン検討会議 玄田氏スピーチ概要

「新しい人間像と希望」

- ・「希望学」というと皆さんには少々耳慣れない言葉だと思うが、2005年から研究を進めてきた。「希望かない」「希望が持てる国、持てない国」等「希望」をめぐるキーワードをしばしば耳にする中で、「希望とは何か」を改めて考え、希望と社会の関係について、研究を進めている。
- ・その中で縁があって、福井県で希望学の調査を行っている。福井県は生活満足度が全国でも飛びぬけて高い、「幸福感」が高い県と理解している。一方で「今現在は幸福感があっても、未来に向けて、夢、目標、希望を持ち続けているのか」、「十数年後どのように持つことができるのか」という問題提起を知事からいただき、ぜひ、共に考えたいと思い、伺っている次第である。
- ・今日のテーマは、「新しい人間像を希望」で、将来ビジョンに関わることなので、希望学で学んだことをいくつかご紹介しながら問題提起をさせていただきたい。
- ・希望学の調査で印象に残ったエピソードを紹介する。ある方の友達の友達が有名な歌手のマネージャーをしているそうで、ある時、その有名な歌手が「絶望の反対って何だと思う」と質問し、そのマネージャーは「希望ですよ」と答えた。歌手は納得しない様子で、マネージャーが逆に質問したところ「私はユーモアじゃないかと思う」と答えたという。
- ・私はこの話がとても好きで、希望学で目指していたことはこういうことかなと思っている。「ユーモア」の意味は、新明解国語辞典によると「社会生活（人間関係）における不要な緊迫を和らげるのに役に立つ婉曲表現によるおかしみ」と書いてあり、この説明に大事なものを見たような気がした。必要以上に緊迫感が高まる中、ユーモアは、これからの社会に必要なのではないかと考える。
- ・福井県民の気質として、「まじめ」、「粘り強さ」がよく言われるが、だからこそ、ユーモアを持つと「面白い」。これからの社会いろんな緊迫はあるが不要な緊迫は皆の力で和らげていこう、真っ直ぐ生きるだけが人生じゃない、ある種寄り道をしたり、婉曲的な道を選ぶことがあってもいいのではないかと、そしておかしみを持って生きていく。これからの人間像を考える時に、「ユーモアのセンス」を頭の片隅に置いてもいいのではないかとと思う。
- ・未来を考えた時、いろんなことがどうなるか分からない。大事なものは未来とは分からないものであることを理解し、どうするかである。ある、女性が活躍するこ

とで有名なソリューションビジネスのIT系企業でインタビューを行った時の話であるが、その会社は優秀な女性がすぐ辞めてしまうという問題を抱えていた。辞めた方に理由を聞くと、大きく分けて、①多忙すぎてある日突然先が見えなくなったため、②多忙でも何とか仕事をこなしていくうちに先が見えてしまったため、の2つであった。

- ・先が全く見えなくても、見えてしまっても希望が持てない。「希望が持てる」とはどういう状況かという、先は全く見えない、分からない状態でも、何かこれだけは見えているから、これを一つの頼りにしてやっていこう、先は見えてしまったと一瞬思っても、まだ見えてないものがあるのではないか、見えてないようで見えている、見えているようで見えていないというある意味中途半端で分からない状態を、楽しむとまではいかななくても、立ち向かっていく「タフネス」を身に付けていかななくてはならない。
- ・分からないことに対して人間は「タフネス」を持つことを日々学んでいるのではないか。中庸の精神を今後の人間道として決して見過ごしてはいけないのではないかと強く感じている。
- ・「タフネス」と「ユーモア」をどのように身に付けていくかは、子どもに限らずこれからの社会で重要なことではないか。今後、社会全体が様々な形で統合する時に、皆がどうしていいか分からずパニックになる状況の中で、福井県人だけは悠々とし、一方で毅然とした態度で皆の緊張を和らげ、立ち向かっていく勇気を与える、このことが、社会にとっての大きな希望になるのではないかと感じる。
- ・「タフネス」と「ユーモア」が必要となった時に、どうすればそのような人材が生まれてくるのか。「ウィーク・タイズ（緩やかな絆）」という言葉がある。転職や組織が変わる時に何が重要かという、転職では特に、資格、学歴、年齢が重要であると言われるがもっと重要なものがある。それは何かしら人生の決断をする時に、どういう人と話し合っているのか、誰と相談しているのか、誰と対話しているのかである。いつも会うような人間関係でなく、ゆるやかな、遠い距離感にあるが信頼で繋がっている人間関係に大きなヒントを得られて成功する。
- ・「ウィーク・タイズ」に繋がる緩やかな関係は、自分と違う世界に生きている方に多い。自分と違う経験をし、違う価値観を持ち、違う情報を持っている人たちと緩やかに繋がるのが大事である。
- ・希望が持てない人は「ウィーク・タイズ」を持ち難い。また、「ウィーク・タイズ」のみならず、「ストロング・タイズ（強い絆 家族、親友等）」も持ち難いという傾向が出ている。人間関係が問い直されているが、福井県の宝である家族や

地域を大事にする、所謂「ストロング・タイズ」を保ちながら、どう「ウィーク・タイズ」を社会全体に広げていくかが課題である。

- ・人材を育てるという観点で、どうすれば「タフネス」と「ユーモア」を持てるかという、3つの「かん」が大事で、これら3つを順番に育てていけばよい。

①「感」

…要するに喜怒哀楽。小さい頃からこの感情を思う存分に発揮させる。それが無ければ人間として生きるエネルギーが湧いてこない。

②「勘」

…「ここから先は危険だな」、「ここまでは大丈夫」というリスク管理も含めた「勘」。時には失敗もつきものである。

③「観」

…ビジョンにあたる「観」。これから先の長い将来、一人の人間としてどのようにして生きていくか。自分なりのビジョンをどう持っていくか。

- ・「幸福」との違いであるが、今幸福である時、次に何を求めるかという「持続」である。希望はというと、今よりも良くしたいという「変革」を求めるものである。

- ・「安心」との違いは、安心はある程度結果が見えていないと安心できない。希望は結果ではなく、むしろ模索であり、探し続けるプロセスそのものである。

- ・ビジョンを自分で持ち続けたい、考え続けたいということが希望のようなことではないかと思う。「希望は叶わないと意味がない」のではなくて、叶う、叶わないは別にして、希望を探そうとする、希望に出会おうとする、希望を育てていこうとすることが貴重であり、人間として求められているのではないかと強く感じている。

- ・福井県の中で「ユーモア」、「タフネス」をどう絶えず育てていくのか、新しい人間像を考える上で大事なのではないかと考える。そういうものがどうすれば育つかであるが、3つの「かん（感、堪、観）」を一人一人が適切に育てていくことであろう。ビジョンとは絶えず求め続けていくもの、模索していくもので、正に希望に繋がっていく。

以上